

子どもたちの「わかった」「できた」を増やそう!

特別支援教育の視点を生かした 授業づくりヒント集Ⅱ

～ 授業実践事例編 ～



令和3年(2021年)3月
滋賀県教育委員会

目 次

○教育上特別な配慮を必要としている子どもたちの理解と授業における 支援ヒント集6項目

○本ヒント集の活用にあたって

- 1 話を聞くことが苦手な子に対して…………… 1
- 2 自分の思いを伝えたり話したりすることが苦手な子に対して…… 5
- 3 文章を書くことが苦手な子に対して…………… 9
- 4 算数が苦手な子に対して……………13
- 5 自分の考えをまとめることが苦手な子に対して……………19
- 6 気が散りやすい子に対して……………25

○参考文献……………31

本ヒント集の活用にあたって

滋賀県教育委員会では、小・中学校の通常の学級における障害の特性に配慮した指導や支援の充実と発達障害に対する教員の専門性の向上をめざした研究として、文部科学省委託事業である「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業（平成29～30年度）」、そして県事業「学びにくさのある子どもへの指導充実事業（平成31年度～令和2年度）」に取り組んできました。

今回発行する『子どもたちの「わかった」「できた」を増やそう！特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集Ⅱ ～授業実践事例編～』は、平成31年3月に発行した『特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』の続編として、学習活動の中での指導・支援について、研究モデル拠点校での実践をもとに作成したものです。

★「教育上特別な配慮を必要としている子どもたちの特徴」の具体の姿を例に出し、6つの項目にまとめました。

1

話を聞くことが苦手な子に対して

例えば、
子どものこんな姿はありませんか。

- ・聞き間違いが多い。
- ・聞きもらしがある。
- ・聞いたことをすぐに忘れてしまう。
- ・個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。
- ・指示の理解が難しい。
- ・単語は理解できているが、文章として理解できない。

- 1 話を聞くことが苦手な子に対して
- 2 自分の思いを伝えたり話したりすることが苦手な子に対して
- 3 文章を書くことが苦手な子に対して
- 4 算数が苦手な子に対して
- 5 自分の考えをまとめることが苦手な子に対して
- 6 気が散りやすい子に対して



次に、対応のヒントとなる写真等の資料を、「支援のキーワード」とともに示した後、通常の学級における指導・支援を1「授業の工夫 (UD化)」、2「授業での個への配慮・個に特化した指導」に整理しました。

また、今回新たに「想定されるつまづきやすいポイント」に対応する実際の指導・支援について、学習の展開の中で色分けをして示しています。

1 話を聞くことが苦手な子に対して (小学校)

支援のキーワード 安心して学べる環境設定の中で個別の言葉かけをし、注意喚起と理解を促す。

聞くことに注意を向けられるような注意喚起をしています。同時に、聞き返したり分からなくなったりしても、安心して学習に取り組めるような環境を設定します。また考えの手がかりを手記に書くことで、意欲を継続させるようにします。

想定されるつまづきやすいポイント【話を聞くことが苦手】

- ・一斉指示の理解が難しく、内容や何をすればいいのか分からないことが多い。
- ・注意の転換による聞きもらしがある。聞いたことについても、すぐに忘れてしまう。

1 授業の工夫 (UD化)

- ・授業の流れを明示し、「何をやるべきなのか」「何のためにやるのか」を示します。
- ・書くことを明確にするために、子どもが使ったワークシートと同じものを用意し、大切な部分は目立つように色を変えて提示します。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・必要に応じて、活動することや説明の内容をまとめたカードを渡します。
- ・指示の前に注意喚起をしたり、活動の始まりには活動内容を確認したりするなど、こまめに声をかけます。
- ・内容を理解し整理して文章を書くを手助けとして、大事な文章に線を引く、線を引いたところから言葉を選んで書くようにします。

2

第10時の展開 日本の伝統工芸のよさを知り、日本自慢リーフレットを作ろう
(小学4年国語科「世界にほこる和紙」(伝統工芸のよさを伝えよう) 光村図書)

本時の目標 (第10時)
選んだ伝統工芸のよさについて詳しく調べ、整理して書くことができる。

主な学習活動	指 導	支 援
1. 前時の学習を振り返り、自分が選んだ伝統工芸と紹介したい理由(伝統工芸のよさ)を確かめる。	・選んだ資料や本を読み直し、授業の流れを明示することで、本時の見通しと意欲をもてるようにする。	・個々に用意した資料をまとめておく、これを読むばいりかを肩肘時に示す。
2. 本時のめあてを知る。 友だちに伝統工芸のよさを伝えるために、くわしく調べ、ひみつノートにまとめる。		
3. 選んだ伝統工芸についてペアの人に紹介する。	・相手に説明することで、リーフレットをつくって相手に伝えることを再度意識できるようにする。	・相手にどのように伝えたいかが示してある小さなカードを渡し、安心して学習に取り組めるようにする。
4. プリントへの記入の仕方を知り、選んだ伝統工芸のよさを伝えていく。	・書く内容を伝えやすくするために、色を工夫して黒板に提示する。	・書き始める時に個別に声かけをし、書く内容の確認をする。
5. 自分が選んだ伝統工芸のよさが伝わるようにまとめているか振り返る。	・拡大したプリントに、書き方の例を示す。	・まずは大事だと思うところに線を引くよう促す。次に授業者と一緒に、線を引いた部分を書くように促す。
	・本時のめあてを確認し、振り返りの視点を示す。	・注意喚起し、机間指導による個別のかけあいを促す。
学習活動、指導・支援の評価		
紹介したい伝統工芸を自分で選択したことで、意欲的に取り組む姿が見られた。	・話を聞き返しても、板書を見て理解できるように視覚化したことで、つまづきやすさが分かった。	・こまめな言葉かけや視覚的配慮などにより、安心して学習に取り組めることができた。

3

1

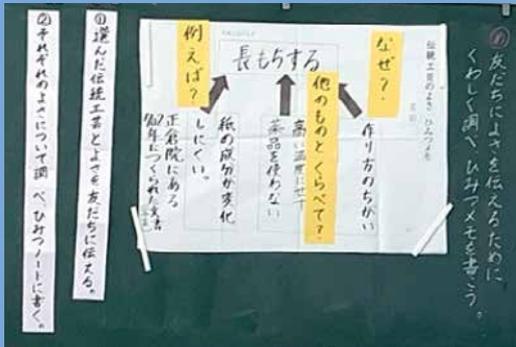
話を聞くことが苦手な子に対して

例えば、
子どものこんな姿はありませんか。

- ・聞き間違いが多い。
- ・聞きもらしがある。
- ・聞いたことをすぐに忘れてしまう。
- ・個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。
- ・指示の理解が難しい。
- ・単語は理解できているが、文章として理解できない。

支援の
キーワード

安心して学べる環境設定の中で
個別の言葉かけをし、注意喚起と理解を促す。



聞くことに注意を向けられるような注意喚起をしていきます。同時に、聞き逃したり分からなくなったりしても、安心して学習に戻ることができるよう環境を設定します。また考える手がかりを手元に置くことで、意欲を持続させるようにします。



想定されるつまづきやすいポイント【話を聞くことが苦手】

- ・一斉指示の理解が難しく、内容や何をすればいいのかが分からないことが多い。
- ・注意の転導による聞きもらしがある。聞いたことについても、すぐに忘れてしまう。

1 授業の工夫（UD化）

- ・授業の流れを明示し、「今は何をするときなのか」「何のためにするのか」を示します。
- ・書くことを明確にするために、子どもが使うワークシートと同じものを用意し、大切な部分は目立つように色を変えて提示します。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・必要に応じて、活動することや説明の内容をまとめたカードを渡します。
- ・指示の前に注意喚起をしたり、活動の始まりには活動内容を確認したりするなど、こまめに声をかけます。
- ・内容を理解し整理して文章を書く手助けとして、大事な文章に線を引き、線を引いたところから言葉を選ぶようにします。

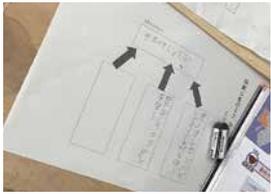
第10時の展開

日本の伝統工芸のよさを知り、日本自慢リーフレットを作ろう

(小学4年国語科「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」光村図書)

本時の目標 (第10時)

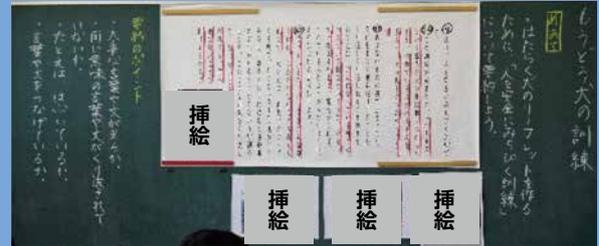
選んだ伝統工芸のよさについて詳しく調べ、整理して書くことができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 前時の学習を振り返り、自分が選んだ伝統工芸と紹介したい理由 (伝統工芸のよさ) について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ資料や本を読み直し、授業の流れを明示することで、本時の見通しと意欲をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に用意した資料をまとめておき、どれを読めばいいかを具体的に示す。
2. 本時のめあてを知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">友だちに伝統工芸のよさを伝えるために、くわしく調べ、ひみつノートにまとめよう</div>	
3. 選んだ伝統工芸についてペアの人に紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 相手に説明することで、リーフレットをつくって相手に伝えることを再度意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手にどのように伝えたらいいかが示してある小さなカードを渡し、安心して学習に取り組めるようにする。
4. プリントへの記入の仕方を知り、選んだ伝統工芸のよさについて調べ、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 書く内容をとらえやすくするために、色を工夫して黒板に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き始める時に個別に声かけをし、書く内容の確認をする。
	<ul style="list-style-type: none"> 拡大したプリントに、書き方の例を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは大事だと思ふところに線を引くよう促す。次に授業者と一緒に、線を引いた部分を短くまとめる。
5. 自分の選んだ伝統工芸のよさが伝わるようにまとめられているか振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを確認し、振り返りの視点を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 注意喚起し、机間指導による個別のかかわりをする。
学習活動、指導・支援の評価		
<ul style="list-style-type: none"> 紹介したい伝統工芸を自分で選択したことで、意欲的に取り組む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞き逃しても、板書を見て理解できるように視覚化したことで、すべきことが分かり、安心して書くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> こまめな言葉かけや座席の配慮とともに、安心できる環境を設定することで、聞くことに意識を向けることができた。

【参考】平成31年（2019年）3月発行 『特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』より

支援の
キーワード

安心して参加できる「わかりやすい授業」の工夫 「パターン化と視覚化で意欲の継続と安心感」



挿絵（写真）を活用することで、
文章の理解を助けます。



3年 国語科「もうどう犬の訓練」の授業より

1 授業の工夫

- ・聞くことが苦手な子には、聞く姿勢を作っているにもかかわらず内容の理解が難しい、または周囲の様子を気にして聞き逃してしまうなどの姿があります。
- ・「①読む」「②めあてをノートに書く」「③自分で考える」「④話し合う」「⑤まとめる」など、授業の大まかな流れを作り「学習の見通し」を持たせることで、安心して学習活動に向かうことができます。
- ・既習事項や学習方法を、注目するようにわかりやすく示すと、聞くことが苦手な子だけではなく他の子どもが思考する際の手掛かりになります。
- ・絵や写真、文字カードを活用し、視覚的に情報を補いましょう。板書（全体説明）とワークシート（個別学習）を結びつけることで、内容がより理解しやすくなります。
- ・指示は、具体的な言葉で、短くはっきりとポイントを伝えましょう。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・全体指示を聞きもらった場合には、個別にそばで言葉かけをし、注意喚起や理解を促します。
- ・話の内容やポイントが理解できているかを個別に確認することで安心して学習に取り組むことができます。
- ・必要に応じて、活動することや説明の内容をまとめたメモを渡すことも有効です。
- ・理解の程度に合わせたヒントカードを用意し、子ども自身が選択する場面を設定することで、学習への参加意欲が高まります。

2

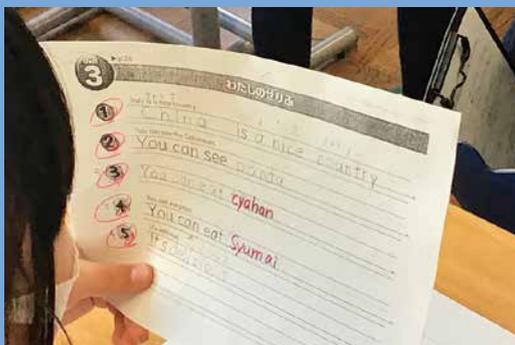
自分の思いを伝えたり話したりすることが 苦手な子に対して

例えば、
子どものこんな姿はありませんか。

- ・筋道を立てて話しにくい。思いつくままに話してしまう。
- ・内容豊かに話すことが難しい。
- ・言葉に詰まってしまう。
- ・適切な早さで話すことが難しい。
- ・要点が伝わりにくい。

支援の
キーワード

安心して参加できる環境設定と事前の準備で 話す土台をつくる



どのように学習が進むのかという見通しをもつことで、安心して授業に参加できるようにします。みんなの前で発表することに抵抗がある児童には、少人数の場で意見を言える場を設定します。英文には自分で読み方を書いておくことや話すことをはっきりさせておくことが、話してみようという思いを引き出すための土台になります。



想定されるつまずきやすいポイント【伝えたり話したりすることが苦手】

- ・何をどう伝えればいいのか分からず、発言が少なくなってしまう。
- ・問われていることは理解できても、単語や2語文などでの短い返答になりがちになる。
- ・人前で話す場面では不安が高まり、黙ったり言葉に詰まったりする。
- ・特定の友だち以外とは、話すことが少ない。

1 授業の工夫（UD化）

- ・話すことへの抵抗を減らすために、全員の前で発表するのではなく、ペアやグループで話す場面を取り入れます。
- ・何をどう伝えればいいのか、事前にワークシートに記入しておきます。話す量も自分で決められるようにします。発表の流れについては、黒板に掲示します。
- ・聞いた側の反応の仕方を全員で確認し、安心して話せる雰囲気をつくります。また、聞いた人のサインをもらうことで、言えたことを視覚化し、「話せた」という達成感につながるようにします。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・話すことが苦手な児童にとって、外国語科の授業は、不安な気持ちが高まる場合があります。そこで、事前に内容や発音の確認を行い、必要な場合は英文にふりがなを打ち、安心して参加できるようにします。
- ・どのような形態で発表するのか（全体、ペア、グループ）についても、事前に知らせ、児童が見通しと心構えがもてるようにします。
- ・机間巡視を早めに行い、肯定的な言葉かけをします。

本時の目標 (第6時)

自分のことを伝えたり、相手のことをよく知ったりするために、おすすめの国について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝えたり聞いたりすることができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. I want to go to Italy を歌う。	・歌えるところを歌うように促し、外国語の授業に意欲をもてるようにする。	
2. 本時のめあてにつながる Small talk を行う。 "Which country do you want to go?" "I want to go to ___."	・3つの国から選ぶという形で、行きたい国について友だちとやりとりをする。	・前後のペアで練習することを伝える。 ・最初は指導者が間に入り一緒に聞くことで自信がもてるようにする。
3. 本時のめあてを知る。	おすすめの国のみりよくを伝えたり聞いたりしよう	
4. 旅行会社の販売員とお客さんになっておすすめの国の魅力を伝える。 ・デモンストレーション ・練習 ・交流 	・前時に仕上げたおすすめの国のパンフレットを見ながら話してもよいことを伝える。 ・見本を見せ、おすすめの国を伝える時のポイント、聞く時のポイントを意識できるようにする。	・パンフレットの裏に読み方の書いたセリフカードをつける。
5. 全体で、よい点などを共有し、自分の伝え方や文章を見直す。	・話を聞いた人は、よいと思ったことについて反応することや、サインすることを確認する。	・最初は、普段話している友だちとやりとりができるようにし、少しずつ他の人ともやりとりができるように促す。
6. 学習を振り返る。	・何人か前で発表し、内容や伝え方のよさ、反応のよさを取り上げる。	
学習活動、指導・支援の評価		
・これまで学習してきた英語表現を使って、自分が興味のある国や見どころについて伝え合うことができた。	・1対1のやりとりをすることで、話すことへの抵抗感が軽減し、自分のことを伝えたり相手のことを知ったりすることができた。	・少ない人数、見通し、セリフカードの支援により、学級の友だちとやりとりをする姿が見られた。安心は、話すために必須の条件である。

【参考】平成31年（2019年）3月発行 『特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』より

支援の
キーワード

コミュニケーションの基本は聞く力 「安心して話し合える学級集団づくりが土台！」



反応しながら聞こう	
指示された時	「はい！」
なっとくした時	「ああ〜。」 うなづく
おどろいた時	「おお〜。」
すごいと思った時	声+拍手！

つなげて発表しよう 意見 ~と思います。理由は、~だからです。 さん〇〇さんの意見にせい さんせいです。理由は、~だからです。
に て〇〇さんといてい いる て、~です。 付 け〇〇さんに付け足し 足す て、~です。 ち が〇〇さんとちがつ う て、~です。
し つなげ~なのですか。その 問 理由を言ってください。 意見 △△と考えていせし たが、〇〇さんの意 見を聞いて、~とい う考えになりました。
反対 〇〇さんの意見に 反対です。理由は、 ~だからです。 か く~の所が分かりにくか にん ったので、もう一度お ねがいます。

スモールステップで意見が言えるように発問を準備したうえでマグネットネームを使い、クラス全員から意見を引き出せるように工夫します。その際に、「発表の仕方」だけでなく、友だちの発表の「聞き方についての約束事」を決めておくことで安心して自分の思いを伝えやすく、互いの意見を尊重し合う雰囲気が作り出されます。



1 授業の工夫

- ・発表の仕方や聞き方の約束について、いつでも見て確認できるように教室掲示をします。
- ・ペアや小グループで、児童同士が教え合ったり助け合ったりする場面を設け、話すことの活動場面を、意図的に取り入れます。
- ・考えるための一助とするために、これまでに学習した単元につながる内容などを分かりやすくまとめ、教室に掲示します。
- ・発表者へ向けて、子どもたちからプラスの声かけや拍手が起こるような誰もが発言や質問のしやすい温かな雰囲気の学級集団づくりに、国語科を核として日頃から取り組みます。
- ・発表の機会を作るために、個々の発言だけでなく、グループやペアで相談した結果を発表させます。自分一人の考えではないので、助力を得やすく、安心もできます。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・自分の思いを伝えやすい安心のできる座席の配置（隣席の児童・全体の位置）を考えます。
- ・発言する際の心理的ハードルを下げるために、意見を整理して書く時間を十分に取、その際の机間指導では、手助けの言葉かけなど、個に応じた具体的な支援をします。
- ・言葉足らずな発表内容へは、適切な補足を行い、発表したことへのプラスの言葉かけをします。

3

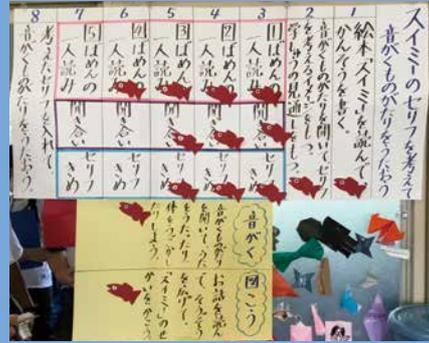
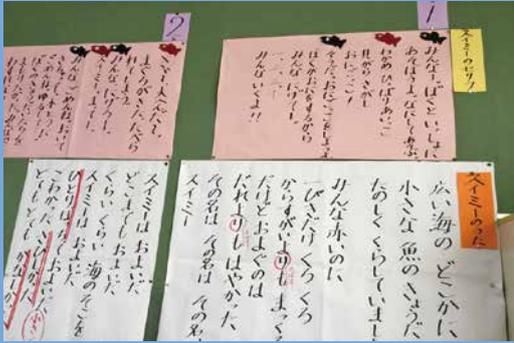
文章を書くことが苦手な子に対して

例えば、
子どものこんな姿はありませんか。

- ・視写ができない。
- ・読みにくい字を書く。
- ・マス目からはみ出す。
- ・鏡文字を書く。
- ・特殊音節（拗音、撥音など）の表記を間違う。
- ・独特の筆順で書く。
- ・間違えた字を書く。（当て字など）

支援の
キーワード

「書きたい!」「書いてみたい!」と思えるような単元構成の工夫



「音楽物語を歌おう」という魅力的なゴールを示します。セリフを考えるとイメージしやすい内容を取り入れることで、意欲がもてるようにします。単元全体の学習内容を明確に示すことで、見通しをもつことができ、何を書くのが分かり、安心して授業に取り組めます。



想定されるつまずきやすいポイント【文章を書くことが苦手】

- ・特殊音節の表記や漢字を書くことが難しい。
- ・話し言葉で思いを伝えることはできるが、書く作業になると意欲が低下してしまう。
- ・書くこと自体に抵抗があり、書き出すのに時間がかかったり、書けなかったりする。
- ・「書きたい」という思いはあっても、相手に伝わるような文章で書き表すことが難しい。

1 授業の工夫（UD化）

- ・何を書けばいいのかを示し、書く内容を焦点化します。その際、手掛かりとなるような写真や絵を掲示します。
- ・文章を書く活動を毎時間積極的に取り入れ、書くことの習慣化につなげられるようにします。
- ・歌う、動作化する、具体物を動かすなどの、多くの感覚を刺激するような活動を取り入れ、関心を高めます。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・書くことの目的を明確に伝え、活動によっては、漢字で書くことを要求せず、ひらがなでもいいことにするなど、個別に方法を工夫します。
- ・書くことへの抵抗を減らすため、紙の大きさや、書く量の異なるプリントを用意し、自分で選べるようにします。

第9時の展開

スイミーのせりふを考えて音楽物語を歌おう

(小学2年国語科「スイミー」光村図書)

本時の目標 (第9時)

4場面の「スイミーは考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」について、行動やせりふを中心に想像を広げながら、自分の思いや考えをスイミーのせりふに書き表すことができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 前時までを振り返りながら、スイミーのせりふを紹介し、本時のめあてを確認する。	・数名のスイミーのせりふを、動作つきで紹介する。	
4場面のスイミーのせりふを考え、聞き合おう		
2. 4場面の音読をし、自分でせりふを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・考える手がかかりとなるようなイラスト、文を掲示する。 ・言葉や文から気づいたことや思ったことを書くという視点を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名でも、書けていることを認め、励ます。 ・2通りのワークシートを用意し、選べるようにする。
3. 全体でせりふを紹介し、理由や根拠を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を掲示し、理由や根拠となるところに名前シールをはり、考えを共有できるようにする。 ・大事な表現については、動作化したり具体物で確認したりして、全体で理解できるようにする。 	
4. 自分が考えたせりふを再考し、ワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの時間を確保する。 ・書いたことよさや満足感を感じられるように、色々なせりふ・考えを認める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいなと思った友だちの意見を書いてよいことを伝える。
5. 考えたスイミーのせりふを、スイミーになりきって読む。		
6. 学習を振り返る。		
学習活動、指導・支援の評価		
・話を読み進めることが、音楽物語のせりふができ上がっていくことにつながり、意欲的に取り組むことができた。	・せりふを言って演じたり、動作化したりすることは、考えを深め、書くことにつながった。	・書くことの楽しさを感じ、「書けた」と思えるような環境を整えるため、抵抗を減らす手立ては必要である。

【参考】平成31年（2019年）3月発行 『特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』より

支援の
キーワード

読み書きの力を支えるきめ細かな一斉指導 小学1年生の「書字のベースとなる力」の育成



「手本と同じようにポーズ！」
「目と体の協応の力をつける」活動



顔を動かさずに、「目だけで対象物を見る」活動
（眼球運動の向上）



書く活動の前に、書字のつまずきの軽減を図る活動を取り入れました。

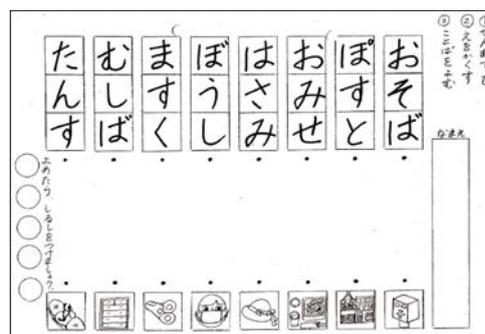


1 授業の工夫

- ・書くことに苦手さがある子どもの中には、「正しい姿勢の保持」や「動かす力」に弱さがある場合が多くあります。
- ・全体指導の「書く」「読む」学習活動の前段として、「見る力」や「動かす力」を高める活動を取り入れてみましょう。
- ・「←」の向きを聞いて身体を動かす「聞く矢印体操」等で、左右の認識の向上や集中力の高まりも期待できます。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・運筆する利き手と、紙を押さえる手のバランスがうまく取れていないことがあります。正しい姿勢の保持や鉛筆の持ち方、両手の使い方を確認しましょう。
- ・個別課題として、目と手の協応の力を高めるひらがな練習プリント（*）に取り組むこともできます。



*ひらがな練習プリント

おすすめ！関連情報！

滋賀県総合教育センター 平成28年度研究成果物

「特別支援教育の知恵袋 書字編 平成28年度改訂版」

「かっくんプリント集」・・・文字学習の基礎となる「書字のベースとなる力」を高めるために使えるプリント集です。最終ページには、書字のベースとなる力を育てる「かっくんタイム」の「年間指導のプランの例」も紹介されています。詳細は、滋賀県総合教育センターのホームページへ。

4

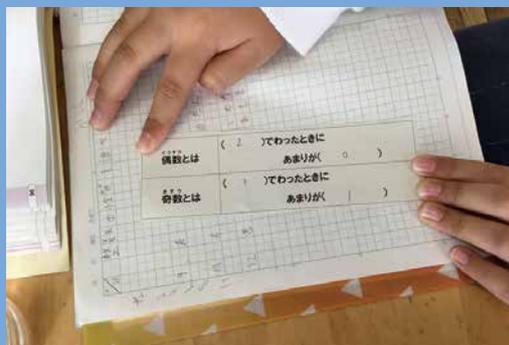
算数が苦手な子に対して

例えば、
子どものこんな姿はありませんか。

- ・ 文章題が読めない。
- ・ 数量や単位の理解が難しい。
- ・ 数量関係が読みとれない。
- ・ 計算に時間がかかる。
- ・ 簡単な計算や暗算が難しい。または、時間がかかる。
- ・ 筆算で位取りがずれてしまう。
- ・ 図形を描くことが難しい。
- ・ 三角定規などの用具がうまく扱えない。

支援の
キーワード

生活に根ざした問題場面の提示と細かなヒントで、意欲の持続を図る。



実際に経験したことがあるような場面を設定することで、学習の見通しやイメージを持ちやすくします。それぞれの活動で細かくヒントがあることにより、「これならできそう」という意欲的な態度が期待できます。



想定されるつまづきやすいポイント【算数が苦手】

- ・算数に対するの苦手意識が強く、「難しそう」と思うと意欲が続きにくい。
- ・筆算で位取りが苦手だったり、書くことに時間がかかったりすることもあり、集中が続きにくい。

1 授業の工夫（UD化）

- ・算数科の学習が生活とつながっていることを感じられるように、学校生活の中で、よくある場面を設定します。
- ・図や数字など、考える手段になるものを板書で残しておきます。
- ・考えるヒントとなるような、キーワードを示します。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・本児にとって馴染みのある数字を意図的に使うことで、学習に参加する意欲を促します。
- ・数字の羅列から性質を見つけられるように、2で割り切れる数にしるしをつけるよう声をかけます。
- ・細かな支援をするため座席の配置を工夫します。
- ・言葉でまとめる際に、すべて書くことが難しいようであれば、大切な部分を書くという、埋め込み式のプリントを用意します。

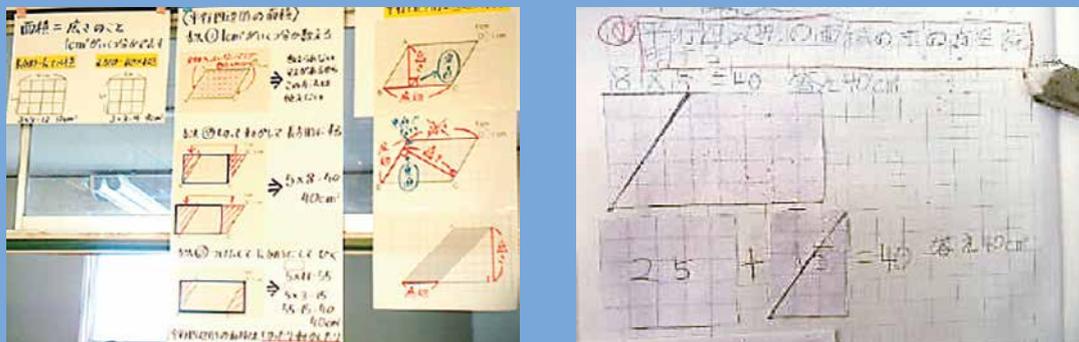
本時の目標 (第1時)

整数を偶数と奇数に類別することができ、それぞれの定義を説明することができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 学校生活で経験したことのある場面 (出席番号順2列の並び方) を思い出し、整数を2つのグループに分けるという本時の見通しをもつ。	・生活に根ざした問題場面の提示により、学習の見通しを持ちやすくすることで、意欲的に参加できるようにする。	・意図的に指名し、全体の前で見本となり実際に並ぶことで具体的にイメージできるようにする。
グループ分けした数字の特徴を見つけよう		
2. 「9」「13」「32」が右(偶数列)と左(奇数列)のどちらの列に入るのかを考えて、理由を書く。	・黒板に5番までの番号を記入し、考えるヒントにする。続きを書くことを促す。	・自分の生活に関わる数であることを確認する。 (出席番号の確認)
3. 全体で数字のグループ分けを確認し、右列の数字と左列の数字の性質を見つけて言葉で表す。	・考える時間を十分とる。 ・難しい場合は、「わり算」をするとよいというヒントを出す。	・2で割り切れる数字に印をつけるよう声をかける。
4. 近くの人と意見を交換した後、全体で話し合う。	・定義から外れていなければ各々の考えを受け入れ、認める。	・自分の考えに自信がもてるよう、意見を書いている場面で励ます。
5. 左列の整数を「奇数」、右列の整数を「偶数」ということを知り、それぞれの特徴についてまとめる。	・友だちの言葉や黒板に書かれている言葉を参考にしてもよいことを伝える。	・書くことの負担を減らすため必要であれば、埋め込み式のプリントを渡す。
6. まとめとして、「0」が奇数・偶数のどちらに類別されるのか考える。	・活動5の結果をもとに考えられるよう、黒板に結果を残しておく。	
学習活動、指導・支援の評価		
・実際の場面をつかった導入をすることで、実感を伴って理解することができた。	・ヒントや板書、自分のノートを参考にすることで、自分の言葉で特徴を説明することにつながった。	・書く量を減らしたプリントを用意することで、意味を理解することに重点を置き、学習することができた。

支援の
キーワード

既習事項をもとに図形を操作して考える



既習事項は掲示し、図や式などの数学的表現を用いて考える手立てとします。本時までに学んだことを、いつでも確認することができるよう、ノートにわかりやすくまとめるための指導・支援をします。



想定されるつまづきやすいポイント【算数が苦手】

- ・ 三角形の求積の場面で、平行四辺形や長方形、正方形の面積に帰着して考えることが難しい。
- ・ 面積を求める際、正しく立式がすることが難しい。
- ・ 自分の考えを整理して説明することが難しい。

1 授業の工夫（UD化）

- ・ いつでも確認できるように既習事項の内容を掲示します。
- ・ 図に書きこむことができるようなワークシートを準備します。
- ・ 授業最初の全体指導により、学びの土台を揃えます。
- ・ 交流することにより、様々な考えがあることに気付かせます。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・ 平行四辺形の面積の求め方を、図を動かしながら復習します。
- ・ 図形を切ったり移動させたり、付け足したりする具体的な操作を取り入れることで、形を変えることができるということに気付かせます。
- ・ 既習の面積の求め方に帰着して考え、新しい公式をつくり出し、公式をもとに立式できるように促します。

本時の目標 (第4時)

既習事項を使って三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 前時までの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・四角形の面積の求め方や「底辺」「高さ」などの図形の構成要素に帰着させて考えることができるよう、前時までの学習内容について掲示物を見ながら確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の面積の求め方を、電子黒板を活用して図を動かしながら、視覚的に既習事項を確認する。
2. めあてを知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 三角形の面積の求め方を考え、説明しよう </div>	
3. 直角三角形の面積の求め方を全体で考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した図形を提示し、試行錯誤する過程を共有する。 ・三角形の面積も、長方形などの知っている形に置き換えると求めることができるという見通しを持たせる。 ・全体で確認することで、学びの土台を揃える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を活用し、求積の参考にするよいかを伝える。 ・図形を切ったり移動させたり、付け足したりすることで形をかえられることに着目させる。
4. 三角形の面積の求め方について自分の考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・図に書き込むことができるようなワークシートを準備しておく。 ・既習の公式をもとに立式させる。 ・考えをまとめる時間を保証する。 ・課題を手早く解決した児童には、複数の解決方法がないかと問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに補助の線を入れた図形を示し、実物を動かしたり図に書き込んだりして考えたとよいことを例を挙げながら具体的に伝える。
5. 考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・まずはペアで自分の考えを説明し合う。 ・全体交流で、様々な考えがあることに気付かせる。 ・求積方法や式表現を確認する。 ・分かったことをノートに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを説明するとき、うまく言語表現できないときは代弁したり言葉を補足したりする。 ・友だちの考えを聞くことから様々な考え方があることに気付かせる。 ・必要であれば、例を提示したり、埋め込み式のシートを渡すなどして支援する。
6. まとめをする。		
7. 本時の振り返りをする。		
学習活動、指導・支援の評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・導入での既習事項の確認により学びの土台を揃えたことで自力解決では様々な考えをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや交流の場の工夫により、考えを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な考え方の例を示すことで、着目すべき点に気付かせることができた。

【参考】平成31年(2019年)3月発行 『特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』より

支援の
キーワード

体験的活動の導入で実感を伴った学びを ゴールがイメージできる課題設定

かごから4mの位置は公平？



上から見ると、本当にまんまる



中心から4cmの点を打って
いくと円になる。

円の学習「みんなが公平にできる玉入れの並び方を考えよう」

まず、直線に並んで玉入れをして不公平であることを体験した後、公平な玉入れの並び方について考えました。

学習後、中心から同じ長さのテープを持って並び、「かごから同じ長さになっている」ことについて、実感を伴う確認をしました。



1 授業の工夫

- ・算数の苦手な子は、見通しやイメージを持つことが苦手な場合があります。「予想→思考→確かめ」と学習の流れを提示することで、授業の見通しが持てるようにします。
- ・できるだけ具体物を用意し、操作活動や体験活動を取り入れることで、実感を伴ってイメージしやすくなります。
- ・生活に根ざした問題場面の提示により、自分の経験から学習の見通しが持ちやすくなり、意欲的な参加も期待できます。



作図の前に、4mの長さを実感できるように、テープで長さを示す。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・体験活動などにおいて、役割を与えることで、より意欲的に学習に参加できるようになります。
- ・発表の際には、ホワイトボードを使用したり、前時の学習の想起において、電子黒板で画像を見せたりする等の視覚支援を工夫すると、集中して取り組むことができます。



本時の学習直後の給食「円になって食べよう！」

5

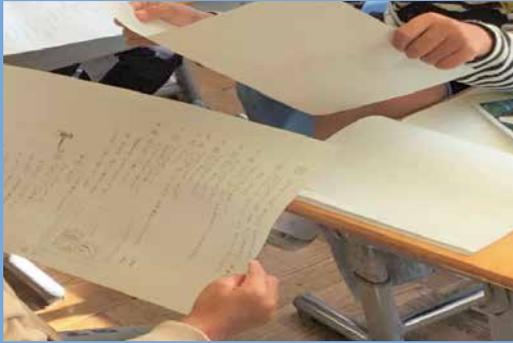
自分の考えをまとめることが 苦手な子に対して

例えば、
子どものこんな姿はありませんか。

- ・決まったパターンの文章しか書けない、話せない。
- ・目的に照らして、計画し、必要に応じて修正することが難しい。
- ・早合点や飛躍した考えをする。
- ・尋ねられた内容に合わない話をしてしまう。
- ・順序立てて、話したり書いたりすることが難しい。

支援の
キーワード

「線」「キーワード」「掲示物」を思考の手掛かりにして、対話を通して考えをまとめる。



自分の考えを表現しやすくするため、「線を引く」「キーワードを示す」という方法を取り入れます。思考の手掛かりになる掲示物があることで、安心感につながります。ペアでの話し合いで自分の考えを表現したり、全体の話し合いで理解を深めたりすることから、自分の考えをまとめるよう促します。



想定されるつまづきやすいポイント【自分の考えをまとめることが苦手】

- ・尋ねられた内容に合わない発言をしてしまったり、早合点したりして、順序立てて自分の考えを整理し、話したり書いたりすることが難しい。
- ・自分の考えに自信がもてず、決まった短いパターンの記述になってしまう。

1 授業の工夫（UD化）

- ・文のつながりや根拠を線や矢印で示し、思考をまとめるヒントにします。
- ・ワークシートと同じ板書・掲示物で示すことにより、自分の考えと友だちの考えを比較したり、確認したりできるようにします。
- ・音読劇をペアで行い、読み方を考えて伝え合うことで、自分の考えをいっそう明確にすることを促します。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・線を引いたり、キーワードが書けていたりすることを認め、自信がもてるようにします。
- ・キーワードが出てこない時には、書かれている言葉や友だちが言った言葉から選ぶよう、選択肢を示します。
- ・せりふを読んでいる姿を指導者が言葉で表現し、語彙を増やすことにつなげていきます。

第9時の展開

かえるくん・がまくんシリーズの中からお気に入りの場面を 音読劇で紹介しよう

(小学2年国語科「お手紙」光村図書)

本時の目標 (第9時)

せりふの読み方について意見を交流することを通して、第4場面に合ったせりふの読み方の工夫を考えることができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	・前時の授業を思い出せるよう第4場面を掲示し、児童の手にプリントを用意する。	
友だちの考えを聞いて、自分なりの読み方を見つけよう		
2. 第4場面の音読をし、前時に記入した自分の考えを確認する。	・キーワードで書いたせりふの読み方を確認し、根拠となる叙述は線や矢印で表現することを伝える。	・前時に書いたプリントの、よく考えられているところに印をつけておき、自信につながるようにする。
3. せりふの読み方とその理由を全体で交流し、せりふの読み方についての考えを広げる。	・子どものワークシートと同じものを拡大し、掲示することで、見て分かるようにする。 ・考えを深めるために、「ああ。」のせりふに着目して考える時間をとる。	・発表の仕方が具体的にイメージできるように、発表の順番を配慮する。 ・体の動きや表情にも着目できるように、「うつむいて」「かたをおとして」等の言葉を補う。
4. 全体交流で着目したせりふについて、どう読めばいいかももう一度自分で考え、ノートに記入する。	・記入する内容と、音読劇をする部分を明確に示す。 ・交流で出た意見を確認できるようにしておく。	・友だちの言葉や、掲示してあるキーワードを参考にしてもよいことを伝える。
5. 決めた読み方で、ペアで音読劇を行う。	・自分の読み方を確認したり、友だちの読み方と比べたりできるように声をかける。	・ペアで音読している様子を見る。
6. 学習を振り返る。	・分かったことや考えたこと、真似したいと思ったことを書くよう促す。	・本児が音読した様子を言語化してフィードバックし、ワークシートや掲示物を参考に書くことができるよう支援する。
学習活動、指導・支援の評価		
・音読劇をするという目的に向かって、せりふの読み方を工夫し、意見を交換する中で、考えを深めることができた。	・線を引いたり、キーワードを書いたりすることにより、自分の考えを表現しやすくなった。	・友だちの言葉や発表を手掛かりにして、考えを深めることができた。

支援の
キーワード

ワークシートや友だちの考えを手掛かりに 自分の考えを書く



考えを書き出しやすいように、自分に合ったワークシートを選択できるようにします。またグループで交流する活動を取り入れ、思考を広げられる場を設定します。



想定されるつまづきやすいポイント【自分の考えをまとめることが苦手】

- ・資料の内容や情報と、課題とのつながりを見出しにくいいため、自分の考えを持つことが難しい。
- ・考えたことをどのように文章にまとめればよいのかわからない。

1 授業の工夫（UD化）

- ・動画や写真など、視覚の情報を提示することで、イメージを持って考えられるようにします。
- ・自分に合ったワークシートを選択できるようにし、考えを書き表しやすくします。
- ・グループで意見を交換したり、全体で考えを出し合ったりする場面を取り入れ、考えを広げたり明確にしたりすることができるようにします。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・提示した写真などの資料について、個別に補足説明し、考えの足掛かりを作ります。
- ・自分に合ったワークシートを使えるように声をかけます。書き出しに困るようであれば、書き出しを示したワークシートを、まとめ方に困るようであれば、キーワードを穴埋めしながらまとめていくようなワークシートを選択するように促し、考えを整理しやすくしたり、書き進めやすくしたりします。

第10時の展開

流れる水のはたらきについて考えよう

(小学5年理科「流れる水のはたらき」啓林館)

本時の目標 (第10時)

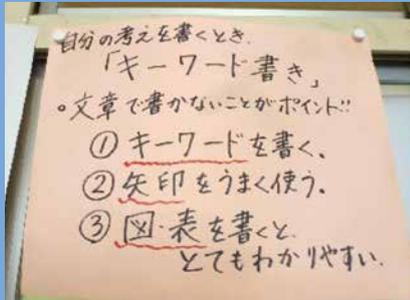
流れる水の速さや量が変わることで起こる災害があることや、人びとやそのくらしを災害から守る取組について理解することができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 前時までの学習を振り返りながら、川を流れる水による災害はどんな時に、どんな災害が起こるのかを考え、本時の学習課題について把握する。	・思考の助けとなるよう、キーワードを板書する。	・板書されているキーワードをもとに課題について考えていけばよいことを伝える。
川を流れる水は、わたしたちのくらしとどんな関係があるのだろうか		
2. 川の増水によって起こる災害を防ぐための工夫を知り、なぜその工夫によって災害を防ぐことになるのかを考え、ワークシートに記述する。	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や写真を見ることで、災害を防ぐための取組の仕組みをイメージしやすくする。 ・ワークシートを3種類用意し、書きやすいものを選択できるようにする。 ・考えを広げるための交流であることを示し、考えを出し合うことを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や写真、資料と課題とのつながりのポイントを示す。 ・本児に合ったワークシートを選択することができるよう、助言する。 ・友だちと交流して分かったことを書き加えられるよう支援する。
3. グループや全体で考えを出し合い、学び合う。	・写真を提示するなどして、川の水からの恵みや自然を生かした減災への知恵について理解しやすくする。	・写真や資料のポイントとなる部分について具体的に説明する。
4. 川を流れる水とわたしたちのくらしとの関係について、川の水による災害への防災や恵みなどから考えたことを自分の言葉でまとめる。	・川などの自然とともに暮らしていくにはどうしていけばよいのか考えることを促す。	・書き出しを示したり、埋め込み式のワークシートを利用したりすることで、自分の考えをまとめられるようにする。
学習活動、指導・支援の評価		
・本時の課題を考える上で必要なキーワードやイメージなど、考えの足場を作っておくことでポイントをとらえることができた。	・考えをもちにくいとき、広げたいときに小グループで他の児童の考えを聞くことは大きな支援になった。また、考えを深めるためには全体での交流が有効であった。	・書き出しを示したり、穴埋め形式で文章をつくるようにしたりする支援は、書き出しやすくなるが、自分の言葉でまとめるという力をつけるためには、さらなる指導・支援を段階的に行う必要がある。

【参考】平成31年（2019年）3月発行 『特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』より

支援の
キーワード

「キーワード書き」から確かな理解へ 「グループ活動を取り入れ、思考をまとめることに慣れる」

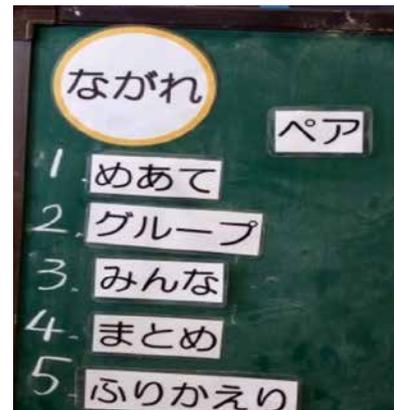


授業に「キーワード書き学習」を取り入れます。本時のポイントを絵や図も使いながら学習内容を整理した後、他の意見と比較しさらに思考を深めます。



1 授業の工夫

- ・自分の考えをまとめることが苦手な子は、右のスケジュール表のようにグループ活動を取り入れる授業の構成が、学習の確かな理解に役立つこともあります。
- ・整理のひな形となる項目（初めに、次に、最後に）を提示するのもいいでしょう。



2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・聞く姿勢を大切に、話し終わるまで待ち、その内容を確認してみましょう。
- ・つぶやきを短冊等のカードに書いて手渡し、思考をまとめるヒントとして活用してみるのもいいでしょう。
- ・文字や絵で思い出す手掛かり（時間、場所、場面、人など）を示すこともできます。

おすすめ！関連情報！

「話のマップ」～物語の内容理解を促す支援として～
長い物語を読むときに、部分的には理解しているものの全体を捉えたりまとめたりすることが苦手な子があります。話の全体を捉える手立てとして、場面ごとに絵やエピソードを吹き出しで書き表した「話のマップ」を作成し、物語の全体の構成を意識できるようにすることもいいでしょう。

6

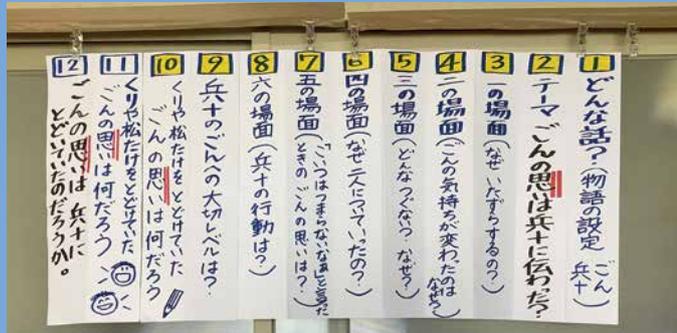
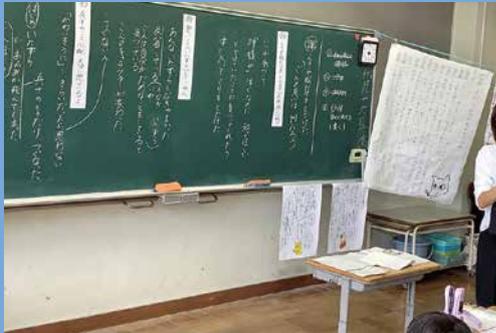
気が散りやすい子に対して

例えば、
子どものこんな姿はありませんか。

- ・ケアレスミスをしてしまう。
- ・課題や遊びなどで、注意を集中し続けることが難しい。
- ・面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える。
- ・気持ちを集中させて、努力し続けなければならない課題を避ける。
- ・指示に従えず、最後までやり遂げることが難しい。
- ・課題を順序立てて行うことが難しい。
- ・学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう。
- ・集中が途切れ、日々の活動の内容を忘れてしまうことがある。

支援の
キーワード

集中がとぎれても、授業や課題に思考を戻すことができる仕組みをつくる



今、何をしているのか、どの部分の学習をしているのかが分かるように、学習の流れを示します。集中がとぎれても、黒板や掲示物、自分の机の上にヒントとなるものがあることで、取組を再開することができます。個別には、座席の配慮と励ましの言葉かけをします。



想定されるつまづきやすいポイント【気が散りやすい】

- ・注意を集中し続けることが難しく、課題を最後までやり遂げることが難しい。
- ・別のことに気を取られ、何をすることが分からなくなったり、取り掛かりが遅くなったりする。

1 授業の工夫（UD化）

- ・単元の学習の流れと1時間の学習の流れを、毎時間同じ場所に掲示し、何をするのかをいつでも確認できるようにします。
- ・自分の意見を表現する時に、選択肢から選べるようにし、考えをもてるようにします。選択肢ごとに黒板にまとめて書くことにより、考えを整理することができます。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・授業の準備やがんばることについて相談し、チェック表にして机の上に貼ります。できていることに○をつけることで、励ましや注意喚起をします。
- ・単元の学習の流れと1時間の学習の流れを確認しやすいよう座席の配慮をします。
- ・一目見てどれだけ取り組めばいいか分かるようなプリントを用意したり、取り組む範囲に印をつけたりして、やる気が持続できるようにします。

第11時の展開

ごんの気持ちを書いたリーフレットをつくろう

(小学4年国語科「ごんぎつね」 光村図書)

本時の目標 (第11時)

くりや松たけを届けていた「ごんの思い」について、文中の言葉を根拠にして、自分の考えをそれぞれの立場で話したり聞いたりすることができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 自分のノートを見返し、前時までの学習を振り返る。本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物で今までの学習を確認し本時の流れを板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に向かう準備ができていたら、チェック表に○をつけ、意欲をもてるようにする。
くりや松たけを届けていた「ごんの思い」は何だろうか。		
2. 選択肢を提示し、自分に一番近いものとその理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考える視点として、前時に出てきた考えを3つ示し、選べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントには、自分の考えに近い考えの記号を書くことよいことを伝える。
3. 自分の考えをペアで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをペアで話し、整理できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で話す前に、ペアで確認することを、板書と口頭で知らせる。
4. 全体で共に学び合う。 ・ 3つの視点で話し合う。 A. くりや松たけを持ってきていたのはおれだよ。 B. いたずらしてごめんね。 C. 1人ぼっちの兵十の役に立ちたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を話せるように、ヒントとなるようなごんの行動やセリフを掲示する。 ・ 自分に近い考えがどれか、ネームプレートをはる。 ・ 途中で、考えを変更してもよいことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントに自分の考えを書けていたら、チェック表に○をつけ、安心して発言できるようにする。
5. 再度自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを変えたり、友だちの考えを付け加えたりする時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の人の意見を参考にしてもよいことを伝える。
6. 学習を振り返る。		
学習活動、指導・支援の評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの視点で考えることで、意見が出しやすくなり、学び合っ中で、ごんの思いに迫ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の流れやヒントが提示されているため、自分の考えを整理しやすく、友だちの意見と比べたり付け加えたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集中がとぎれても、目に入るものや個別の言葉かけで、授業に戻ってくることができた。(見て分かることは、気が散りやすい子にとって有効である。)

支援の
キーワード

短い学習活動と学習の流れの提示、身近な課題設定により、見通しと目的意識をもつ



10分程度の短い学習活動の設定と流れの提示により見通しをもたせ、集中が続くように工夫します。身近な課題を設定することは、目的意識をもち、主体的に課題解決に向かうための支援になります。



想定されるつまづきやすいポイント【注意を集中し続けることが苦手】

- ・集中が途切れ、活動の内容を忘れたり、分からなくなってしまうりする。
- ・課題に対し、順序立てて取り組むことが難しい。

1 授業の工夫（UD化）

- ・話したいという気持ちを高めるように、児童が直面している課題や興味を持つテーマを設定します。
- ・1つの学習活動を短く区切り、集中が持続できるよう、授業構成を工夫します。
- ・話し合いに主体的に参加できるよう、役割（司会、記録係、時間係、提案者、参加者）を分担します。
- ・ペアやグループで話し合う活動場面を計画的に取り入れます。
- ・掲示物により話し合いの流れを示し、学びの足あとシートを、見通しや整理のため活用します。

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・ペアでの事前の話し合いを通して、自分の考えを明確にし目的意識をもたせます。
- ・学習のめあてに沿った自分のめあてをもたせ、学級の最後に振り返りを行います。
- ・問題意識をもって課題に向かえるように、映像や写真等を活用します。

第5時の展開

レツトライ！クラス会議！

(小学4年国語科『学校について紹介することを考えよう』東京書籍)

本時の目標 (第5時)

議題について、解決に向けて司会などの役割を果たし、友だちと自分の意見を比べながら話し合することができる。

主な学習活動	指導・支援	
	授業の工夫 (UD化)	個への配慮と個に特化した指導
1. 学習の見通しをもち、自分のめあてを決める。 議題「給食後の牛乳パックの片付け方について考えよう」	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの前に役割会議をもち流れや時間配分などを確認する。 授業当日の朝の手洗い場の様子をスクリーンに映す。 学級全体で話し合いのめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの座席を工夫する。(全体の位置、隣席の児童) 予習ノートを事前に確認しておき、教師のコメントを入れておく。 話し合いの見通しをもたせるため掲示物等を活用する。
役割を意識しながらクラス全体で話し合おう		
2. 議題について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 議論が外れた場合には、全体の話し合いを一旦中断し、議題の内容を再確認する。 記録係には、大事な言葉を板書するように助言する。 カラーマグネットを用いて、意見の分類をする。 役割ごとに発表し、板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> 予習ノートをもとに、自分の考えを話すように助言する。 全体指導をしながら理解できているかを確認する。 言葉足らずな発表内容に対しては他者に付け足しを求めたり、指導者が補足をしたりする。
3. 自分の役割についての振り返りをワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> 個々のめあてに対して自分の学習はどうであったか、前時の振り返りを活かせたかどうかに着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書や助言により、話し合いを振り返ることができるようにする。
4. 振り返りを交流する。		
学習活動、指導・支援の評価		
<ul style="list-style-type: none"> 役割を明確にしたことで、自分の役割を意識して積極的に話し合いに参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 議題に関する場面を映像で見せることで、より自分事として捉え、その解決法について、具体的に考えさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 予習ノートで事前に自分の考えをもたせたり、ペア学習で伝え合う活動をしたりすることにより、自分の立場を明確にし、話し合わせるすることができた。

【参考】平成31年（2019年）3月発行 『特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』より

支援の
キーワード

「学習の流れ」の提示で、見てわかる授業 「学習の見通し」を示し、学習に向かう姿勢を作る！

1時間の学習の流れだけでなく、
1単元の学習計画も示すと、
よりわかりやすいです。



国語科3年 説明文の学習では・・・
子どもたちと一緒に学習計画を作成すること
で、学習意欲が向上しました。

時間	学習内容
①	- 全文を読む。 - 要約の意味を知る。 - リーフレットの表紙を見て、これからの学習の見通しを持つ。
②	【段落①～③】 - どういう犬がいるのか知る。 - 「もうどう犬」について要約する。
③	【段落④～⑥】 - さいしょの訓練「人間のいうことにしたがう訓練」について要約する。
④	【段落⑦～⑧】 - つぎの訓練「人を安全にみちびく訓練」について要約する。
⑤	【段落⑨】 - 「もうどう犬にふさわしい心があえ」について要約する。 【段落⑩】 - 「もうどう犬をつかう人との訓練」について要約する。 【段落⑪】 - 「もうどう犬としてのくらし」について要約する。
⑥	- リーフレット作り① - 現時までに学習した要約から、どのようなリーフレットのこうせいにするのか考える。
⑦	- リーフレット作り② - 書き①。
⑧	- リーフレット作り③ - 書き②。
⑨	- はたらく犬について、本などで調べる。
⑩	- はたらく犬について調べたことを要約する。
⑪	- はたらく犬について要約したことをリーフレットに書き写す。 - リーフレットのかんせい。
⑫	- 仕上がったリーフレットをグループで読み合う。

1 授業の工夫

- ・ 落ち着いて授業を受けられない子どもは、集中の持続が難しい場合や聞いてわかる力が弱い場合が多く、自分の行動をコントロールできずに困っています。導入で、本時のめあてやポイント、学習内容、学習の流れ、活動手順などを視覚的に提示することで、授業の流れがわかりやすく、見通しを持って学習に臨めます。
- ・ 聞く活動、書く活動、読む活動等、多様な学習活動を取り入れる、また、1つの学習活動を10～15分ごとに短く区切る等、授業構成の工夫をすることで、集中して学習しやすくなります。
- ・ ペアやグループによる話し合い活動等を取り入れ、学習形態の工夫をすることも集中力の持続に有効です。
- ・ 今学習している内容の板書に矢印マーク（*）をつけると、注意がそれた後も学習に戻ることができます。



* 学習の流れに
現時点を表示
「今、ココ！」

2 授業での個への配慮・個に特化した指導

- ・ 話し始める前に、「〇〇さん」と名前を呼んだり肩に手を触れたりするなど、注意喚起をすることが有効です。その後も個別に励まし、承認することで集中力を高めます。
- ・ ペアやグループでの活動が効果的にできるよう、座席配置に配慮します。
- ・ やり遂げられる量の課題を提示すると、取り組みやすく、自信と次へのやる気につながります。

■参考文献

- 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校算数』
令和2年（2020年）3月

- 滋賀県教育委員会
『子どもたちの「わかった」「できた」を増やそう！特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集』
平成31年（2019年）3月

- 水戸部修治著
『新学習指導要領&3観点評価対応！小学校国語科 質の高い言語活動パーフェクトガイド1・2年』
明治図書出版、平成30年（2018年）8月

- 桂聖・廣瀬由美子編著
『授業のユニバーサルデザインを目指す 国語授業の全時間指導ガイド 4年ー特別支援教育の視点をふまえた国語授業づくりー』
東洋館出版社、平成25年（2013年）3月

- 東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会 with小貫 悟
『通常学級での特別支援教育のスタンダード』
東京書籍、平成22年（2010年）8月

- 湯沢正通・湯沢美紀著
『ワーキングメモリを活かす効果的な学習支援』
学研教育みらい、平成29年（2017年）6月

- 涌井恵編著
『学び方を学ぶ』
ジアース教育新社、平成26年（2014年）8月

- 涌井恵編著
『学び方にはコツがある！その子にあった学び方支援』
明治図書出版、平成27年（2015年）2月

子どもたちの「わかった」「できた」を増やそう！

**特別支援教育の視点を生かした
授業づくりヒント集Ⅱ**

～ 授業実践事例編 ～

令和3年(2021年)3月：初版発行

滋賀県教育委員会事務局特別支援教育課

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL：077-528-4641

FAX：077-528-4957

E-mail：tokushi@pref.shiga.lg.jp